

C9800を搭載したCatalyst Centerとプロビジョニングされた機能の比較の概要

内容

[はじめに](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、C9800ワイヤレスコントローラのステータス（オンボーディングとプロビジョニング）に応じて、Cisco Catalyst Centerで使用できる機能について説明します。

背景説明

Cisco Catalyst Center(旧DNA Center)の目的は、自動化を通じてネットワークオペレータの日常業務を促進することです。しかし、Cisco Software Defined Networkソリューションがリリースされるたびに提供する各種機能に対応するのは、ネットワーク管理者にとって困難な作業になる可能性があります。

問題

スケール、セキュリティ、および互換性の観点から各環境の詳細を検討すると、ソフトウェア定義アクセス(SDA)、LANオートメーション、ワイドエリアポズジュール、アプリケーションポリシーなど、Catalyst Centerで利用可能な最も高度な機能を完全に採用することは簡単または不可能な場合があります。その主な理由は、新規または既存のどちらの環境でも、設定、運用、および可視性の主要ポイントとしてCatalyst Centerを使用してプロビジョニングされたネットワークデバイスでのみ一部の機能を使用できるためです。

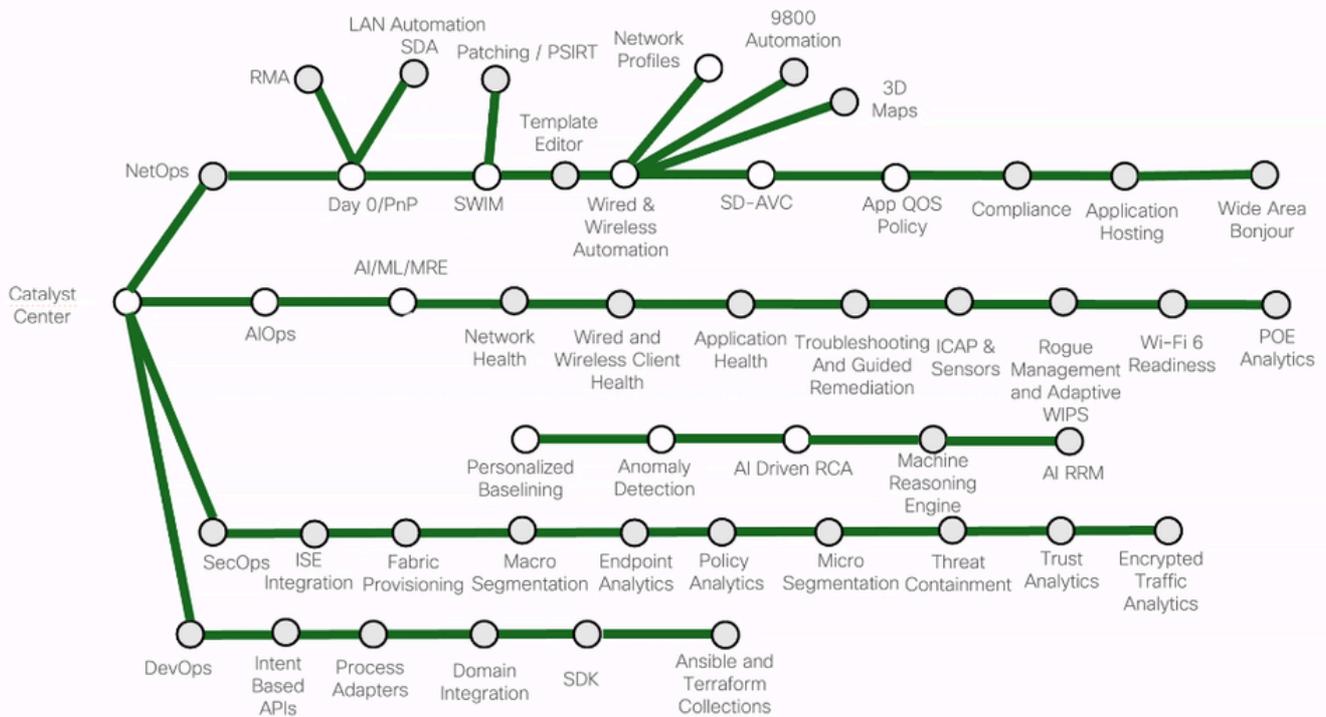
一方で、ネットワークデバイスをオンボーディングするだけで多くの機能を利用できます。マトリクスには、これらのオプションに対する回答が記載されています。

 注:オンボードワイヤレスコントローラとは、インベントリで検出され、建物またはフロアに割り当てられたコントローラです。したがって、モニタリング目的のために、デバイスはAssuranceにある程度の可視性を持ちます。ただし、ワイヤレス設定（SSID、RFプロファイルなど）はデバイス上でアウトオブバンド方式で直接実行されるのに対し、プロビジョニング済みコントローラは、ワイヤレス設定、ネットワークプロファイル、CLIテンプレートなどを通じて意図に基づいてオンボーディングおよび導入されたデバイスです。

解決方法

この記事の目的は、信頼レベルを高めてCatalyst Centerに可能な限り多くの機能を実装し、ネットワークに対するより良い洞察と制御を得ることです。

Cisco Catalyst Center Capability Map



Catalyst Center機能マップ

このマトリクスは、オンボーディングまたはプロビジョニングされたデバイス管理ライフサイクルのさまざまな段階で使用できる機能を明確に示すことを目的としています。これは、2.3.5以降のバージョンのCatalyst Centerと対比されます。特に断りのない限り、C9800上で動作するCisco IOS® XE 17.9.xが最小バージョンです。

注:この表には、Catalyst 9800ワイヤレスコントローラの情報のみが記載されています。

注：特定の機能には、ワイヤレスコントローラによる特定のバージョン（17.9.x以降）が必要です。詳細は、『[リリースごとの9800の機能マトリクス](#)』を参照してください。

注：一部の機能（AAA、DHCPなどのネットワークサービスのモニタリングなど）は、実際の設定（ローカルモードSSIDなど）にも依存します。そのため、このような前提条件や制限事項が記載されている設定ガイドを参照してください。

注：特定の機能（データパケットキャプチャ、スペクトル分析など）は、アクセスポイントモデルに依存します。詳細については、参照先の構成ガイドを参照してください。

機能	Catalystセンター2.3.5.x	Catalystセンター2.3.7.x
AIOps/Assurance機能		
<p>アシュアランスダッシュボード(ネットワークおよびクライアントの健全性ダッシュボード、デバイスおよびクライアント360、ネットワークサービス - AAA、DHCP、DNS *1)</p> <p>*1には17.10が必要です。</p>	オンボーディング	オンボーディング
<p>インテリジェント・キャプチャ：</p> <ul style="list-style-type: none"> - アクセスポイントのRF統計情報のキャプチャ - 異常検出 - スペクトラム解析*2 - オンボーディングパケットキャプチャ - データパケットキャプチャ*2 - OTAスニファ*3 <p>*2使用するAPモデルによって異なります。</p> <p>*3には17.11と2.3.7が必要</p>	オンボーディング	オンボーディング
<p>不正およびaWIPSテレメトリ*8</p> <p>*8 この自動化により、Catalyst Centerで管理されるすべてのワイヤレスコントローラでテレメトリサブスクリプションが有効になります。</p>	オンボーディング	オンボーディング
<p>不正ルールとプロファイル*9 *10</p> <p>*9不正ルールと不正プロファイル、およびWIPSプロファイルは、Catalyst Centerでのみ有効です。</p> <p>*10ワイヤレスコントローラレベルのカスタム不正ルールは、手動(アウトオブバンドまたはインバンド)で実行する必要があります。</p>	オンボーディング	オンボーディング
<p>aWIPSプロファイル*9*11</p> <p>*11 ワイヤレスコントローラレベルのデフォルトまたはカスタム</p>	オンボーディング	オンボーディング

APプロファイルで、aWIPSおよび調査を手動で有効にする必要があります。		
アプリケーションテレメトリ*4(ネットワークサービス - DNS*1も有効) *4 アプリケーションテレメトリ設定は、WLCポリシープロファイルを一時的にシャットダウンし、ワイヤレス接続を中断します。	オンボーディング	オンボーディング
ネットワークの理由 - 保証テレメトリ分析 - CPU使用率 - pingデバイス - ワイヤレスAPデータの収集 - ワイヤレスクライアントデータの収集	オンボーディング	オンボーディング
AIネットワーク分析	オンボーディング	オンボーディング
3Dマップ	オンボーディング	オンボーディング
Wifi 6対応状況	オンボーディング	オンボーディング
インベントリの洞察	オンボーディング	オンボーディング
レポート	オンボーディング	オンボーディング
コンプライアンス*5 *5コンプライアンスは、次のようなコンポーネントで構成されています。 1. ネットワーク設定	提供	提供

<p>2. EoXサポート終了</p> <p>3. スタートアップコンフィギュレーションと実行コンフィギュレーション</p> <p>4. ネットワークプロファイル</p> <p>5. ソフトウェアイメージ</p> <p>6. 重要なセキュリティアドバイザリ</p> <p>機能2、3、5、および6はオンボーディングで動作します。</p>		
SD-AVC(CBAR)	提供	提供
<p>AIエンドポイント分析*6</p> <p>*6 SD-AVC(CBAR)が必要</p>	提供	提供
NetOps/自動化機能		
SWIM – ソフトウェアインベントリ管理	オンボーディング	オンボーディング
AP設定のワークフロー	オンボーディング	オンボーディング
APのリポートとLED	オンボーディング	オンボーディング
<p>ライセンス マネージャ</p> <p>– スマートライセンスのコンプライアンス (Cisco IOS XE 17.3.2以降)</p>	オンボーディング	オンボーディング
ワイドエリアボンジュール	オンボーディング	オンボーディング
リモートサポート許可(RADKit)	オンボーディング	オンボーディング

AI-RRM	提供	オンボーディング
AP省電力*1 *6 *1には17.10が必要です。 *6 APに電力を供給するスイッチはマネージド型である必要があります。	提供	提供
APプラグアンドプレイ*7 *7 WLCを事前にプロビジョニングすることなく、CLIテンプレートとAPフィルタを使用してPnPベースでAPをオンボードできます (BRKEWN-2667 Cisco Live EMEA 2024)。	提供	提供
SD-Access – ファブリック – マイクロセグメンテーション	提供	提供
LANの自動化	提供	提供
アプリケーションポリシー。(アプリケーションQOS)	提供	提供
Stealthwatchセキュリティ分析	提供	提供

関連情報

- [Cisco DNA Center 2.3.5 Assuranceユーザガイド](#)
- [Cisco DNA Center 2.3.7 Assuranceユーザガイド](#)
- [テレメトリを使用したSyslog、SNMPトラップ、NetFlowコレクタサーバ、および有線クライアントデータ収集の設定](#)
- [Cisco DNA Center 互換性マトリクス](#)
- [アクセスポイントの機能マトリクス](#)
- [Bonjour導入ガイド](#)
- CiscoLiveセッションID
 - [BRKEWN-2667](#)
 - [BRKOPS-2402](#)
- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。